

## 令和3年度生野区区政会議 第3回全体会

### 1 開催日時

令和4年3月7日（月） 19時01分～21時11分

### 2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

### 3 出席者

（区政会議委員）23名

船方委員、三木委員、宮崎委員、加藤委員、永松委員、大倉委員、橋野委員、藪本委員、倉本委員、山崎委員、古本委員、北口（英）委員、柴田委員、大藤委員、北口（充）委員、三浦委員、川口委員、前田委員、廣川委員、洪委員、川中委員、山納委員、森本委員

（大阪市議会議員）4名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

（大阪府議会議員）1名

角谷議員

（その他関係者）4名

多田様、田中様、和田様、新井様

（生野区役所）20名

山口生野区長、櫻井副区長、上原教育委員会事務局学校環境整備担当部長、大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、谷上保健福祉課長、熊見地域福祉推進担当課長、森地域まちづくり課長、坂本安心まちづくり担当課長、小原企画総務課長、清水区政推進担当課長、山崎保険年金担当課長、長田生活支援担当課長、山戸窓口サービス課長、杉本まちづくり推進担当課長、花月教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、樋口教育委員会事務局総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、上林企画総務課長代理、上田企画総務課長代理、林都市整備局生野南部事務所長、富森市民局区政支援室地域安全担当課長兼生野区役所住民運動支援・調整担当課長

### 4 委員に意見を求めた事項

（1） 令和4年度生野区の取組み（案）について

資料 令和4年度生野区の取組み（案）一生野区運営方針一

参考資料1 和4年度生野区関連予算（案）

参考資料2 いただいたご意見と区の考え方：第2回各部会

(2) その他

5 会議内容

○小原企画総務課長

皆さん、こんばんは。ただいまから令和3年度第3回区政会議全体会を始めまいります。よろしくお願いいたします。

事務局の企画総務課、小原と申します。よろしくお願いいたします。かけて説明させていただきます。

委員の皆様におかれましては、本日お忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。本日、区政会議、異東まちづくり協議会の北口委員におかれましては、前のほうですね、リモートでご参加をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の出席状況でございますけれども、本日の会議は委員定数30名に対しまして、21名のご出席がございますので、会議が有効に成立しております。

また、本日の傍聴者につきましては、1名となっております。

続きまして、条例に基づきまして、市会議員の皆様のご出席についてご報告申し上げます。

私の右手後方になりますが、木下誠議員でございます。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○小原企画総務課長

武直樹議員でございます。

○武議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○小原企画総務課長

原口悠介議員でございます。

○原口議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○小原企画総務課長

同じく条例に基づきまして、関係者のご出席を賜っております。歴代の議長等を務められました皆様でございます。

入り口のほうになります。多田龍弘様です。

○多田様

多田です。よろしくお願いいたします。

○小原企画総務課長

田中照章様です。

○田中様

こんばんは。田中です。よろしく申し上げます。

○小原企画総務課長

和田友祐様です。

○和田様

こんばんは。よろしく申し上げます。

○小原企画総務課長

新井光淑様です。

○新井様

よろしくお願ひいたします。

○小原企画総務課長

以上でございます。

なお、区政会議に関する本市規則によりまして、出席された方のお名前、発言内容等、公開させていただきます。後日、事務局におきまして、会議録を作成いたしまして、区役所ホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影について、ご了承のほどよろしくお願ひ申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨でございますけれども、本日の区政会議全体会では、主に令和4年度生野区の取組状況につきまして、委員の皆様のご意見等を頂戴いただきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。お手元に置かせていただいておりますが、よろしゅうございますでしょうか。

1枚、一番上が次第になっております。

続きまして、A4のホッチキス留めで横長ですね。「令和4年度の生野区の取組み（案）－生野区運営方針－」というちょっと分厚い冊子になります。

続きまして、参考資料1と右肩に表示させていただいております。右肩にホッチキス止めですね、「令和4年度生野区関連予算（案）概要」というものでございます。

続きまして、右肩に参考資料2というものでございます。「いただいたご意見と区の考え方」というものでございまして、左肩ホッチキス止めです。これ1月に実施予定しておりました各部会が書面開催となりましたので、各部会におきまして、いただいたご意見、それに対する区の考え方と対応ということで記載させていただいております。そういう資料になります。よろしいでしょうか。

あと、パンフレット類になります。ちょっと大きさがまちまちなんですけれども、順番になっているかと思っておりますが、まず小さいカラーの折り込みのチラシになります。「おたすけマップ」というやつですね。

続きまして、同じような大きさで、「ミニ子育てマップ」というやつです。ございますでしょうか。カラー刷りのものです。

続きまして、白黒になるんですけれども、少し大きめの冊子、先ほどの倍ぐらいの大きさの「みんなで子育てするまちをめざして！」という冊子。よろしいでしょうか。

続きまして、カラー刷りで1枚物ですね、「いくみんのほんだな」という冊子です。カラーの1枚物でございます。A4、1枚です。

続きまして、地域公共交通検討会というカラー刷りのA4、1枚です。3月24日に開催します会議のご案内になっております。

一番最後になりますけれども、広報いくのの3月号をつけさせていただきます。よろしゅうございますでしょうか。

もし不足等がありましたら、またお知らせいただければと思います。そしたら、早速でございますけれども、議事に入ってまいりたいと思います。これからの進行は、三木議長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

#### ○三木議長

皆さん、こんばんは。議長の三木です。よろしくお願ひします。

ただいまから、令和3年度第3回区政会議を開催します。

区政会議は、区民が主役として地域運営に当たるために、地域の課題解決のため、どう取り組むべきか、また課題解決に必要な行政とのパートナーシップとは何なのかを建設的に提案する、そういう趣旨の会議となります。

よって、委員の皆様個人の感想ではなく、地域を主体的に運営する見方に立って、意見を交換し、議論を深めるという姿勢で、積極的なご発言をお願ひいたします

それでは開催に当たり、山口区長からご挨拶をお願ひいたします。

#### ○山口生野区長

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中、また新型コロナウイルスもまだ感染が続く中、こうしてお集まりいただきありがとうございます。感染対策をしながら進めてまいりたいと思います。

今回の区政会議は、来年度の生野区の取組について、できるだけ資料はたくさんつけてますけれども、区民の皆様それぞれいろいろな立場でここに来られていますので、区政会議の委員の皆様はいろいろな立場で来ていただいている、また地域の声も持ち寄っていただいていると思いますので、できるだけ皆さんに多く発言をしていただけたらというふうに思っております。

そして私ごとではありますが、5年前、この最後の区政会議に来て、次の区長として挨拶をさせていただいたのを思い出すんですけれども、この3月末で生野区を離れることとなりました。次は港区の区長として、また引き続き関わることにはなるんですけれども、異例の人事で

して、今の港区長の筋原区長が今度生野区長になるということで、交代という大阪市では今までなかったような人事です。2人、もともと仲がよかったのがありますが、できる限りトップスピードで、今までやってきた取組を絶えることなくバトンを渡そうということで、今引き継ぎをしているところです。

本日の会議で皆さんから出た意見、それから皆さん同士で話し合っ  
て見つけていった方向性みたいなものは、しっかり引き継ぎたいと思  
っておりますので、ぜひたくさん発言をして、いろいろな方に発言を  
していただけたらと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします  
します。

○三木議長

ありがとうございます。それでは、議事に入ります。

お手元の会議次第に沿いまして、議事の1、令和4年度生野区の取  
組み（案）について、区役所から説明をお願いいたします。

○上林企画総務課長代理

区役所事務局、生野区役所の上林と申します。よろしくお願いいたします  
します。

私のほうから、本来であれば、分厚い資料の中をページを送りなが  
ら説明させていただいていたんですけれども、やはり本日の目的であ  
って、皆さんに活発な議論をしていただくということもありますので、  
私のほうから、そこからかいつまんで、話題提供という形でお話しさ  
せていただきたいと思います。スライドと動画を使って話題提供させ  
ていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず初めに、この3本立てで話させていただきます。生野区のまち  
がどのような変化が今起きているのかということと、区政の取組の  
中で重点的な取組をしている3本柱についてお話しさせていただくの  
と、最後に魅力の発信シティプロモーションについてお話しさせてい  
ただきます。

初めになんですけれども、まず運営方針というものがどういうもの  
なのかというところを少しだけ話させていただきます。区の施策の選  
択と集中の全体像を載せているものが運営方針になります。こちらは  
毎年策定しているものでして、その中身は、目標とする像と課題を記  
載しているのと同時に、事業をどういうふうな戦略で進めるのかと、  
具体的な取組というのを書き込んでいるのが運営方針になります。

では、生野区のまちの変化ということでお話しさせていただきます。  
まず、生野区のまちの変化、これは社会全体の変化でもあるんですけ  
れども、新型コロナウイルスの感染というのが絶対に外せないものだ  
と思います。

これまで2年間、感染者の推移を見たグラフになっているんですけ  
ども、今でちょうど第6波になっていまして、第5波と第6波は縮尺

を変えておりました、第5波のとき、2020年の9月頃ですね、1日の最大が3,000人ぐらいの感染者数であったところ、第6波になりまして、最大で1日1万5,000人を超える日があったというような、そのような変化がありました。

その中で、コロナ禍だからこそ大切な日常の健康というのがあるのではないかなというふうに考えています。もちろん手洗い、うがい、感染症対策は大切なんですけれども、がん検診というのも大切だということを来年度も啓発していきたいと考えております。もちろん広報紙とかで特集するのもあるんですけれども、来年度につきましても、総合がん検診デーというふうに、複数のがん検診が受けれるような日も設けたりですとか、過去に受診された方に、少し最近来られてないような方たちにも手紙を送ったりとかして、伝えていきたいというふうに考えております。

次は、まちの防犯についてお話しさせていただきたいと思えます。実はですね、この5年間で、街頭の犯罪件数というのが半分ぐらいに減ってきているというのが生野区のまちの現状であります。

生野区としての取組は、防犯の抑制になるのと見守り活動に有効であるということもありまして、防犯カメラ100台の設置を目指してつけていっております。来年度がちょうど100台に達成する、令和4年度で完了ということになっております。

もう一つ、まちの変化といいますと、今現在、社会実験中のオンデマンドバスではないかというふうに思います。

こちらオンデマンドバスが走り始めた頃の利用状況なんですけれども、徐々に伸びていきまして、初めは西側エリア限定で走っていたものが、昨年12月から全体、東側のエリアにも入りまして、全域で社会実験が行われている状況になります。

来年度、令和4年度につきましてもオンデマンドバスの社会実験が継続して行われることが決まりました。

ここで、動画でオンデマンドバスってどういうものなのかということをご紹介させていただきたいと思えます。

(動画)

○上林企画総務課長代理

ありがとうございます。すみません、ちょっとハウリングがひどくて申し訳ありません。

では、スライドに戻りまして、ご説明をさせていただきます。

次は、区政の3本柱、重点的に取り組む3本柱の取組についてお話しさせていただきます。

3本柱なんですけれども、1つ目は「子育て・教育環境の充実」というものです。2つ目が「空き家対策」、3つ目が「多文化共生の取組」になります。

子育て・教育環境の充実というところなんですけども、キーワードはやはりつながりというふうに考えております。

つながりの中で、生野区だけではできない取組というのをいろいろさせていただいているんですけれども、「いくみんのほんだな」という左下にあるものですね。今日皆さんのお手元にチラシをお渡しさせていただいているんですけども、子育て支援の施設の先生方と職員が一緒になって、絵本を紹介するブックレットになっております。子育てが楽しくなるような取組というので、今も配っているんですけど、4月からまたリニューアルさせていただく予定になっております。

もう一つ、教育環境の充実というところなんですけど、右下のところ「IKUNO未来教育ネットワーク」というのがありまして、こちら民間の力を借りまして、つながりの中でキャリア教育の充実などを目指すものになっております。

こちらのほうも動画でご紹介させていただきたいと思っております。

(動 画)

#### ○上林企画総務課長代理

ありがとうございます。では、またスライドに戻ってご説明させていただきます。

3本柱の2つ目なんですけど、空き家対策というのがあります。生野区は、5軒に1軒が空き家という空き家率の高さがありまして、24区の中では、大体5番目ぐらいの空き家率の高さになっています。ですが、空き家を利活用するということがありまして、そちらを見える化するということも進めています。

空き家を利活用して、そこを居住とかお店とか、若い方たちがいろいろなチャレンジをして、活用されているというのを広報紙で連載記事として紹介していました。

最近の取組としましては、公民連携、こちらも民間事業者との連携で力を借りまして、空き家と空きスペースを見える化するということを試みております。

大きな空き家というふうな形になると思うんですけども、学校跡地の利活用ということも進めております。その中では、御幸森小学校の活用事業というのが来月、令和4年4月から事業者による活用が始まるというような段階になっています。

3本目なんですけども、多文化共生、こちらは生野区、5人に1人が外国籍の方という人口比率になっておりまして、韓国、朝鮮籍の方と長い共生の歴史があり、財産があります。その中で、大切にしながら、「やさしい日本語」ということの取組を進めています。これは行政側からの情報発信という側面と、まちの中でのコミュニケーション、会話の中で使っていただきたいなというような取組になっております。

こちらのほうも動画で紹介するものがありますので、ご覧ください。

(動 画)

○上林企画総務課長代理

ありがとうございます。すみません、音がハウリングしたり、ちょっと小さくて聞きにくかったりして申し訳ありません。

最後にスライドに戻りまして、少し説明させていただきます。

最後は、シティプロモーションというところで、魅力の発信をしているものがあります。生野区、やはりいろいろな魅力があるというふうに我々も考えておりまして、銭湯が24区で一番多いとか、だんじりがすごく盛んであったり、先ほども言いましたように空き家をリノベーションして暮らしている方たちだったり、ものづくり企業が多かったり、多文化共生のまちであったりというところが魅力なのかなというところ。そういうところを発掘、浸透していくために、区内外へ魅力を発信していくことをやっていっております。

また新しい取組として、「シニアスマートシティ・いくの」という取組をしております。これはシニア世代の方たちもスマホを自由に使っていて、そうするといろいろな楽しみが増えていくのではないかと、人生100年時代と言われている世の中で、そういう楽しみも持てるまちというのも魅力の1つになっていくのではないかとというふうに考えております。

「全ての人に居場所と持ち場のあるまちへ」というキーワードで、生野区として、来年度、令和4年度も取組を進めていきたいと思いません。

私からは、話題提供としては以上になります。

○三木議長

ありがとうございました。

ただいま区役所からの説明がありました。これから委員の皆さんに意見交換をしていただきますが、限られた時間でより円滑に意見交換をしていただけるように、私のほうから学識委員を代表して、山納委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは山納委員、よろしくお願いいたします。

○山納委員

山納でございます。よろしくお願いいたします。

今日は9時までということでございます。22名の方が参加というふうに聞いております。前回、11月に全体会を行いました。その次に、1月に部会があるという予定でしたけれども、コロナでなくなりました。ですから、11月に集まって以来、あまりそこから議論は進んでない状態だと思っています。22名せつかくおられるのですから、22名全員にしゃべっていただきたいと思っています。9時までですから、単純に計算すると1人3分ぐらいしゃべる時間がありそうに思っています。いきなり3分しゃべって言うても困ると思います。ちょ

つとほぐすような話をしてみたいと思います。

今日、先ほど上林さんから区役所がこんなことをやってきたというお話をいただきました。生野区のまちがこんなふうに変化をしてきましたというところから、区政の3本柱、子育て・教育環境の充実をしていこうと、空き家対策をしていこう、学校跡地の利活用なんかもやっていこうと。そして、多文化共生の取組をしていこうと。3番目には、魅力発信、シティプロモーションをやっていこうというお話をされました。すごく生野区役所が頑張っていて、いろいろなことをされているので、ともすると、これはどうなんだろうということになってしまふ。それに対してどう意見が言えるだろう、考えを述べられるだろうかとなりそうなんです、なので上林さんが言ったことは半分忘れてください。

皆さんは生野区をどうしたいとっておられるのか、どんな生野区になってほしいのかと一旦考えてみてください。今、生野区役所がされている中に、ほかの自治体だったらやってるけど生野区はやってないこととかありますね。若い人たちの仕事をつくろうということをやるとか、移住者をもっと増やそうということやるとか、ほかの自治体ではそんなことをやっていたりします。生野区は何をやっていて、何をやっていないのかという、一旦ベースに戻していただいてものを考えてみると、もしかしたら3本柱ならぬ4本目の柱というのが見えてくるかもしれない。それぐらい一旦フラットに戻して、皆さんにお話をいただけたらと思っています。

もう一度言いますが、生野区をどうしたいのか、そしてどんな生野区になってほしいのか。それをベースに、できたらこういう施策があったほうがいいのか、こういう取組があったほうがいいのか、そんなものを見つけていきたいと思っています。

ですが、9時までにそれが出たらすごいです。そこまで行くことはあまりないと思います。これの次にまた部会があるんだと思います。部会は多分3つに分かれて、もっとこの辺を掘り下げていく作業をしていくのだと思います。そこに至る種を探すというんでしょうか、皆さんの中にどんな思いがあるのか、生野区のために何ができるのかというふうなこと、もしかしたら区役所にやって言うだけではなくて、「やさしい日本語」とかそうですね、自分でやればいいんですよ。そういう活動をする人が増えたらいいんじゃないかということろにいくのかもしれない。そんなことの種を探したいと思っています。

ということで、1人3分ぐらいの時間、3分たったら「3分たちました」って僕言います。ですので、できるだけ全員にしゃべっていただくと思っています。

端から順番にとかやったら多分無理だと思うので、今この状態で、しゃべりたいことがある、しゃべれるという人がいたら、その順番で

つないでいこうと思っておりますけれども、いかがでしょうか。早く済ませたいという人。

じゃあ、僕は今から3分を計る人になります。お願いいたします。

○北口（充）委員

異東の北口といいます。今おっしゃった生野区のことなんですが、今コロナ禍でなかなか対応できないと思いますが、私ども異東の連長、多田連長が申し上げますように、訓練じゃないんだ、訓練は何度も繰り返すことによって身について覚えて訓練になると、いつもおっしゃいます。昨年11月でしたっけ、久々の防災訓練に参加いたしましたが、やはり忘れていたことも多かったです。小規模になりましたから、消防、そういう点での協力も少なかったです。人数も制限されました。ですけど、集まるということで、校内をもう一度見渡したときに、ここは安全だな、ここは老人の方が避難しやすいなとか、そういうことを現場で見るといふことのやはり一番かなと思って、多田連長のおっしゃることが確かにそうだなというのを再確認しました。

ですから、役所の方々、もしくは行政の方々、大変忙しいのは分かりますので、地域全体が無理でも、例えば異東でしたら7町会ありますが、3つ、4つでも、少しでもまた、ふだん出席されない方に学校を見ていただく、それと自宅から避難場所までの距離、時間などを確認していただくのが、やはり身近な防災、もしくは避難ルート、避難場所の設置の仕方、それと地域で力を合わせていくという点では、必要ではないかなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。

今で1分20秒ぐらいです。3分使い切らなくてもいいです。いかがでしょうか。この間の時間が惜しい。しゃべれる人がいたらお願いいたします。そんな3分ですごいことを言い切らなくていいですよ。これを今後考えましようという、この置くぐらいの感じで大丈夫です。

はい、お願いいたします。

○永松委員

生野地区の永松です。先ほどは遅れて来て申し訳ないです。

実はこのお手元の参考資料2、いただいたご意見と区の考え方で、まちの未来部会の意見として、一番最後のページですね、私の意見を載せていただいているんですが、新しくできる生野未来学園の制服ですね、標準服を決めるという部会に参加させてもらっていたんです。その中で、多様性に配慮した標準服を考えようではないかという提案をさせていただきまして、これもかなり意見というか、いろいろな意見が出て、もめるほどではないんですけど、いろいろと熱い議論にもなった上で決まった標準服なんです。

その中で私がお話させていただいたのは、最近、生野のここだけで

はなくて、いろいろなところで新しく標準服、制服を変えますというときに、LGBTQに配慮した制服を採用しましたと広報で出るというのがとてもよくあるんですけども、実際はもう一声というところがあるんです。LGBTQに配慮したのではなく、全ての子どもたちに配慮した、いろいろな子ども、いろいろな事情があって、性的マイノリティだけではなく、その子の健康状態に合わせて衣類というのは当然選んでしかるべきものなので、そういう視点で標準服を身につけられるように。

小学生は、半ズボンがずっとそうだったんですね、男の子。部会的时候にも「半ズボンでしょ、だって今までそうだったんだから」という意見があった中で、そんなことないんじゃないですかと。確かに今まではそうだったかもしれへんけど、自分で自分の体調に合った、長ズボン履きたいという子は当然いてますよと。それ選べるようにしましょうよという話も含めて、多様性に配慮した、自分に合った衣類を選ぶ、そういうのを制服の中にコンセプトとして入れましょうという話になって、その上で決まったユニセックスなデザインということだったんです。

ただ、それを保護者の方に、やっぱりその部分をきちんと伝えていただきたかったんですが、それを部会の中でも言わせていただいたんですが、なかなかコロナの状況があったとはいえ、その説明がちょっと足りなかったのではないかなというのが、地域の一保護者として情報を受けたときの感覚でしたし、今ここのお返事を読ませていただいたところでも、あれだけLGBTQではなく多様性に配慮したと言ってくださいと言ったのに、LGBTQに配慮したものであることを紹介させていただいたっていうところが、あのときの私の説明は足らんかったかなというのを思いつつ、ちょっと残念だなというのを、改めて今これを読んで思った次第です。

やっぱりこのお話の中で、広報ってものすごく大事ですよっていう話をさせてもらったんです、この文章の中で。私自身も広報的なことをやるので、伝わってなかったら結局言っても意味がないというのを、私自身も言いながら胸に刺さるところなんですけど、そこをもうちょっとうまいことやっていただけたらなと。すみません、長くしゃべって。よろしくお願いします。

○山納委員

ありがとうございます。ちょうど3分ぐらいでお話を頂きました。

今コメントを頂きました、関係者を紹介したいので事務局でお時間をということ、今振らせていただいたらよろしいですかね。

○小原企画総務課長

議論の途中ですみません。先ほどご紹介できませんでした関係者の方がお見えですので、ご紹介をさせていただきます。

市会議員の山田正和議員でございます。

○山田議員

お疲れさまでございます。

○小原企画総務課長

大阪府会議員の角谷議員でございます。

○角谷議員

こんばんは。遅くなりましてすみません。よろしく申し上げます。

○小原企画総務課長

以上でございます。

○山納委員

ありがとうございます。

それでは、続けましょう。3分の持ち時間を使いたい方、おられますか。

○大藤委員

こども未来部会の大藤です。異南から出させてもらっています。

異南にあるんですけども、新異中学ですけども、うちの娘が1年生で入ったときに、校長先生に相当ハッパをかけさせてもらいました。たまたま1年生に入った途端にPTAの会長をお願いされまして、校長先生にお願いしたことは、行ける学校に行かすんじゃないくて、行きたい学校に行けるようにさせてほしい。でないと子どもらは、高校に行ってから辞めてしまうんじゃないか、そういうところにすごい引っかかりがあって、実際娘の同級生も卒業してから、ある日、居酒屋に行ったらバイトしてました。そういう部分で、この区政会議でもお話しさせてもらいましたけども、リチャレンジができる環境をお願いします。そういうことをここで相当お話しさせてもらいました。

区長からもご説明いただいたりとかということで、再チャレンジできるところはあるんですけども、今日この場にははる皆さんにももう一度再認識していただきたいなど。高校を辞めても、復学という手もあるし、転校という手もあるし、大検という手もあるし、その子が将来、生活していく上で、アンダーな部分に陥らないような方法があるんですよということを、もし自分の周りにそういう若い方がいらっしゃいましたら、それをぜひ説明してあげてください。区役所に行けば、そういう手助けをしてくれる部署ありますよというところ、もう一度頭の中に入れて今日帰っていただいたら、僕は幸せです。

○山納委員

ありがとうございます。再チャレンジができる場所ですね。そういうものをどう区の中につくっていけるか、考えてみたいと思います。

はい、お次の方。こんなところでしゃべるといのは、ちょっと勇気が要るかもしれません。こんなに人がいたらちょっと怖いですね。聞き役になってもいいので、ようしゃべらんという人がいたら、思っ

ていることを取りあえず残して帰るぐらいの感じで、気軽にお話を始めていただけたらと思います。いかがでしょう。

○前田委員

こども未来部会の前田です。

まず最初に、先日の持続可能なまちづくり事業に関してなんですけども、継続することが決定いたしましたので、意見をご検討いただき大変ありがたく思います。

先ほど山納委員さんがおっしゃっていた、生野区の未来をどうしていきたいかということについて、僕はお話をさせていただきたいと思います。

3つの指針を生野区、提案されていたんですけども、僕自身のテーマの1つが多世代交流という部分がありまして、もちろんいろいろな国籍の方々が住む生野区ではあるんですけども、僕自身、小さい子どもから大人の方までが、何か一緒になって参加できるようなイベントであったりとか、その中で学びを双方が得れるような居場所づくりをしていきたいなと思っております。

なぜそれが大事なのかということなんですけども、子どもたちが今やりたいこと、やろうと思えばできることってたくさん増えていると思うんですね。ただ、やり方が分からない子どもたちがたくさんいると思って、じゃあどうしたらやり方が分かるのかということとは、身近な大人の方にやり方を聞く、まねるということが大変大事だと思うんですね。核家族化が進む中で、大人の方と接する機会が子どもたちって大変減っていると思います。そういった機会とか居場所をどんどん増やしていただいて、子どもたちがやりたいことを見つけたときに、それを実現できる、サポートできるような居場所、まちにしていきたいなと僕自身思っているところであります。

○山納委員

多世代交流とかですね、そういうことに関して何か、ここでこんなことをやっているとか、知ってはることってあります。うまい事例みたいなもの。

○前田委員

これは僕自身になってしまうんですけども、僕自身が生野区の空き家をリノベーションしてしましまして、コミュニティカフェを運営しています。そこのテーマが多世代交流と、あと「共に育つ」と書いて「共育」といった場所です。その場所で様々な体験活動を提供してしましまして、例えば職業体験、子どもカフェとあって、カフェの運営を子どもたちが体験するであったりとか、僕自身がボードゲームとあって、海外でもよく使われている、教育の一環にも使われている人生ゲームのようなものがあるんですけども、そういったものを通して子どもたちと大人たちが一緒になって遊ぶといったようなことや、ゲストにアー

ティストの方を呼んでトークライブをしてもらうであったりとか、世界の写真展を展示しているといったような様々な体験活動も提供させていただいています。

その中で、子どもたちが興味を持ったものに対して参加していただき、そこから身近に開催をしてくださった方とお話ししたり、学びを得れたりすることができるので、そういった場所がどんどんどんどん、この生野区はすごく大人と子どもの接点が身近であるから、そういった居場所もたくさんあると思うので、そういう場所が増えていけばいいかなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。既にやっておられるという方でございます。

○船方副議長

北鶴橋の船方と申します。

生野区でやっている「やさしい日本語」について、私は青少年指導委員等をやっていたので、その辺はすごく情報をいろいろ得ることがあって、機会があれば、使えるときは使っていたんですけども、たまたま昨日、スリランカから介護の仕事で来られている30代の若い男性がいらっしゃって、その方と話すことがたまたまあったんですね。そのときに職場で一緒に働いていらっしゃるお母さんのような存在の方がいらっしゃって、その方が日本人の友達をつくってあげたいということで、その青年を連れてこられて、若い世代と引き合わせているというのがあったんですね。

そのスリランカの方は日本語検定2級まで持っているのですが、日本語はかなり堪能なんですけれども、やはりちょっと分かりづらいときがあるということで、話をするときには私が短く切って話したりとかっていうのをしていたんですけども、そのときに引き合わされた若い子たち3人ぐらい、同じぐらいの年代の子なんですけれども、全然「やさしい日本語」というのを生野区がやっているということを知らなかったんですね。なので、もう少し、広報活動だけで済むのかどうか分からないんですけども、「やさしい日本語」というのをもっと広く伝えられるような仕組みがあったらなというふうに思います。

一番近道としたら、海外から来た方と一緒に働いていらっしゃる方が地域の何かの会合に連れてきたりとかして、引き合わせてあげたりとかしてするのが近道じゃないかなと思うんですけども、もう少し「やさしい日本語」というのを広く広めていただきたいなというふうに思いました。

○山納委員

ありがとうございます。上林さんがあれだけ学校に出ていっても、テレビに映っても、なかなか浸透は。もう継続でしょうね。いろいろ

な人がこういうことをやっていくということがいいのかなと思いました。ありがとうございます。

では、次はどなたでしょうか。お願いいたします。

○山崎委員

皆さん、こんばんは。東小路地域から来ました山崎と申します。

私が先週、近くの整骨院に行っているときの話なんですけども、待合室での話なんですけども、ご年配の方が「オンデマンドバスって知ってるか」と、お友達の方に話しているのがふと聞こえました。オンデマンドバスが始まってから、僕はこの生野区でたまに外に出たりしても、あまり見かけることもなかったし、そんなに身近に感じるものがなかったんですけれども、ふとその病院での待合室で話しているのが聞こえました。あれすごい便利なんやでと、今度みんな使ってみたってよというのをお友達の方におっしゃってましたけども、ただお友達の方は、初めて聞いた、何だそれはと。名前は聞いたことあるなど。四、五人の方で、知っているのはその1人の方だけだったんですね。でも、少しずつ浸透していつているのかなと。少しずつしか浸透しないのかなと。今後もっともっと広まって、とてもいい事業だと思うので、まだ社会実験ということだと思っうんですけれども、もっと広まっていけばいいなと思います。

こういう事業というのは、私はこどもの未来部会なんですけれども、どんな事業も何をしたいか、何をするかというところを議論して、それをどう広めるかというところがとても大事なことだと思います。幾らいいことを話し合っても、広まらなければならないのと等しいと思いますので、どう広めるかというところは、今後、最重要課題。今いろいろSNS等もあるので、どう広めていくかというところに重点を置いて、今後よりよい生野区になればいいなと思います。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。「やさしい日本語」に続いて、オンデマンドバスって意外に知られていない問題ですね。役所のほうで一生懸命頑張っていることは、意外と浸透していないということ、じゃあどうやったら浸透していくのかというふうに考えていくきっかけをいただいたような気がいたします。ありがとうございます。

では、次はどんなお話をいただけるでしょうか。お願いいたします。

○宮崎委員

区政会議でまちの未来部会に入れてもらっている、御幸森地域の宮崎です。

生野区に今、来たい人、行きたい人というのはすごく増えてるねん、そのど真ん中にいてるもんやからね、これはええと思っうんです。僕は何でこの人こんなところへ来るのかなと思っう。韓国の食文化もものす

ごい人気やね。それで来るんやと思うけど、取りあえず若い女性やね、ほぼ8割が女性。あれだけの人が来たい、行きたい生野区やね。それで、孫もヤンニョムチキン売ってるから行こって、それ何じゃいって僕言うんやけどね、そういうふうなことが浸透しているんやね。

だから、今言うてる来たい、行きたいのは生野区になるけど、ところが生野区の問題は、住みたい、住み続けたいという人が欲しいんです。住みたい、住み続けたいと。この人がない限り、空き家がどんどん出て、学校までどんどん減らしていかなかんし、空き家が増えて人がおらへんねんからね、それは当たり前やろね、学校も要らなくなる。それ何でやって言ったら、生野区は暗い。暗いイメージがあるんやね。

ほんで、僕まちの未来部会でしょ。一体、生野区の未来のために、具体的に区政で何ができるねんっていうことを自分に問うてみてん。何ができるねん、何をせねばならんのかっていうのを具体的に、自分にね。どうしたら生野区がよくなるのかっていうのを。僕の本音から言ったら、生野区あかんと、もう駄目、どんどん下がっていく。人も住まへん。住みにくいになると。そうじゃなくて、生野の未来を開くために区政会議があるんやから、これで具体的に何ができるねんと、どういうことができるねんと。何をせねばならないのかっていうのを自分に問うてみたんですよ。

ほんで僕が思ったのは、明るいイメージを生野区につくる方法、これは僕は考えたんやけどね、御堂筋ってすごいでしょ。第2の御堂筋を勝山通につくるねん。それで、大池橋から生野区・生野警察があるでしょ。それで桃谷高校があるでしょ、プール学院あるでしょ、勝山幼稚園あるでしょ。ほんで生野に税務署あるでしょ。ずっとね、イルミネーションでつながんですよ。

○山納委員

イルミネーション、大胆なご意見ありがとうございます。3分たちました。

○宮崎委員

そしたらね、ものすごいいんじゃないかなと思うのは、生野区は明るいというイメージが。大阪市の中で生野が変わってきて、生野は明るいんやでって言われたらええんちゃうかなと思う。

それともう一つは、お風呂なんです。お風呂屋さんって、生野区メインといたらおかしいけど、これが急激に減っていつているんです。これを何とかね、言うたらボイラーを改装するときに半分助成したるとか、一番ええのは、老人パスをお風呂で使えるようにして、ほんで老人パスは100円でしょ、50円でしょ。あれでお風呂に行けるようにしたったら、何か画期的なことを考えたらんと、お風呂屋さんものすごい勢いで減ってますよ。今度また灯油の需要が上がってるから余計やと思うけど、これも何とかしたるのが生野を明るくする具体的な策

じゃないかなと。

○山納委員

ありがとうございます。大胆な2つが出ましたね、お風呂と第2の御堂筋。

これに乗っかる形で発言していただいてもいいですよ。そうだ、そうだって言っていただいてもいいかと思います。次の方、いかがでしょうか。

○倉本委員

皆さん、こんばんは。小路地域の倉本と申します。座ったままで失礼いたします。

私は、くらしの安全部会から来させていただいて、よく思うのが、私自身がこの場に来させてもらうのはすごく貴重なんですけど、若い方があまり町内会の活動に参加してくださらないのが特徴的だなというのが感想でございます。

1年ほど町内会で一緒にやらせていただいていますけども、やっぱり防災訓練をしても若い方が来ず、特に20代、30代の方々が少なかったりとか、今小路連合の中でも話題になっているのは、町会に入ってくださらない世帯が増えてきているということで、そういった方々とは、災害時はどういった連携をとった方がいいのかというのをすごく感じていますので、若い方が参画しやすい地域にどうしたらできるのかなというのが、私自身も答えは持っていませんけども、何かいい知恵を皆さんで出し合っていたらうれしいなということと、私自身もできることがあればやっていきたいなというふうにすごく感じています。

きっかけになったのは、昨日、町内会の寄り合いでいただいたアルファ米の50食分を1回つくってみたんですね、地域の方々と。8.5リットルの水をはかって、熱湯15分で、50食をみんなで分け合ったんですけど、やっぱり作り方が難しいのと、初めての方だったらこれはようつくらんなというのが感想でした。若い方がいないと、説明書を出して、これとこの備品を出して、お湯を先に準備しとかなあかんでというような段取りも時間がかかりますので、いろいろな方に知恵をお借りしながらも、できれば若い方がそういったところに来ていただいて、有事の際は地域で安否確認をしながら、安全第一な安心なまちづくりというのは、何よりも大事なんじゃないのかなというふうに感じています。町会に入ってくださらないので、自宅訪問をしてもお断りされたりとか、ちょっと足を一步踏み込んだら不法侵入だと言われながら、そんな傍ら役員がたくさん頑張ってくださっているけども、なかなか参画いただけないというのが課題感であると同時に、人口減少の原因なのではないのかなとすごく感じていますので、若い方がどうやったら地域に参画いただけるのかというのを、永遠の課題な

のかもしれませんが、これからも探し続けたいなというふうに感じております。

私からは以上です。ありがとうございます。

○山納委員

若い人に町内会活動をもっと参加してほしい、これは多分どこの地域でも感じていることではないかなと思います。ありがとうございます。

それでは、いかがでしょうか。

○廣川委員

こんばんは、廣川と申します。まちの未来部に入って活動させてもらっています。

率直な疑問なんですけど、空き家が多い多いって言われているんですけど、どこを見たら空き家っていうところの情報があるんですか。不動産とかじゃなくて、もっと行政メインの何かサイトであったりとか、空き家バンクであったりとかがあってもいいのかなと。ただ、蓋を開けてみたら、区の土地持ちであったりとか地主さんだったりとかあったところのしがらみが多分あると思うんですけど、それを解決やったりとかをしていくような取組といったところがあれば、外から情報はつかみ取りやすいのかなと。

あと個人的な意見ですけど、宮崎さんみたいな話、めっちゃ大好きです。ロマンを感じるような、御堂筋にしようぜみたいな。それを本気で動いている大人たちを見た子どもたちが、将来何かチャレンジするきっかけになるんじゃないかなというのは自分が思って、先ほどおっしゃってた子どもたちがリタイアとかしたときに、でも選択肢はあるんだよといったところって、やっぱりはい上がっていくとか強い子どもたちといったところは、大人の背中を見て育つんじゃないのかなというふうに思います。

あと民間がもっと動きやすい見え方というのは、どうしたらいいのかなっていう。民間が動いているところに行政が乗っかるという形のほうが、やっぱりとっつきやすいと思うんです。やっぱり行政ってちょっと距離が遠いので、どう近くするかってなったときに、民間の人たちといったところの動きというのが重要になってくるなど。

で、先ほどの話にもつながるんですけど、空き家っていったところを見えやすいようにしたときに、何かアクションを起こしたい、そうなったときに生野区といったところが、空き家で、しかも安価やでとか、敷居が低い中でチャレンジできる環境なんだったら、生野を選択するという人たちは増えるのかなと。

あと、自分は生野区は人間くさいから大好きで、もっと人が観光資源になれば、行政の人たちが動かなくてもいいのかなという。だから、民間で地域を起こしていく人たちがどうまちの人たちをPRするか

ていうところをもっと意識すれば、面白いんじゃないかなというふう  
に思います。

○山納委員

ここで3分です。まだありますか。

○廣川委員

いや、大丈夫です。

○山納委員

では、ありがとうございました。空き家はどこにあるのかという話  
であったり、観光というものを民間レベルで考えるというふうな話を  
いただきました。そうですね、分かっていたら、こんなリノベーション  
をして、こんなことをやってってということが考えられるかもしれない  
と。民が先に動いて行政が乗っかるという話もあって、その考え方と  
いうのはいいなと思います。

では、次の方に行きましょう。

○三浦委員

皆さん、こんばんは。西生野連合から来ました三浦と申します。

先ほど未来学園の話がありまして、西生野小学校に孫が今2人通っ  
ております。先ほど制服の話がありまして、かわいらしい制服も見せ  
ていただきました。うちの孫が3人そこにいるんですけど、3人の制  
服を一遍に買うというのは、とても家庭的に大変だなって。三十何年  
か前に自分の子ども、3人が転校するとき、制服を丸々自腹で買わ  
なきゃいけなかったときがありまして、地域のことを何も分からなく  
て、そしたらリサイクルがあるという、後で知ったことなので、もう  
お金使ってしまったんですけど、今度の制服は、最初の購入するとき  
には無料でということで、本当にありがたいなと思っております。か  
わいらしい制服ですので、また4月から始まると思いますので、皆さ  
んまた見ていただきたいと思います。

それともう一つ、疎開道路の、玉出と生野中学の間の新しい道路が  
できたんですけど、あの道路を渡るのものすごく危ないです。最  
初から危ないなと思っていて、一番下の孫が幼稚園に通うのにそこを  
どうしても通らなきゃ、送り迎えするのに、全然言うことを聞かない  
子だったので、ぱっと走っていくんですよね。押さえて押さえてっ  
て言ったら、車がどちらからも渋滞してしまったりとか、事故にはなら  
なかったんですけど、この場所は何度か事故も見ていますので、信号  
機をつくるには距離的には短いのか、信号機ができないってなったら、  
何か標識みたいなことができれば、私は交通的なことは分からないん  
ですけど、そういうものがあつたらいいなと思っています。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。制服の話、そして危ない新しくできた道路

のお話をいただきました。

それでは、次の方がいでしょうか。お願いいたします。

○洪委員

こども未来部会の洪といいます。よろしく申し上げます。

意見を言うつもりは全然なかったんですけど、皆さんすごいなと思って、言わへんかったら帰られへんなと本気で思いました。

あともう一つは、参考資料2ということでいただいたご質問と区の考え方というところを見ますと、こんなに積極的に意見を言っても生野区は受け入れてくれるんやって、真剣に思いました。

なぜそういうことを言うかといいますと、私つい最近まで学校に務めてまして、学校を通して子どもたち、保護者、地域の方と一緒に何かすることが多かったの、見えてくるものがある意味、生野区には住んでるけれども、またちょっと違った見方をしていました。

その中でも、あまり言いたくなかって、こんな話をしているんですけど、御幸森小学校に勤務してまして、皆さんご存じのようにユネスコスクールだったんですが、全国大会というのがユネスコスクールにはあります。それに私は学校代表で行ったことがあるんですが、そのときに、私は別にお客さんでもないし、分科会でのパネラーでもなかったんですが、ある興味があった分科会に行ったときに、話し合いの中で「私とこの学校はこういう学校です、こんな取組をしております。生野区はこんなとこです」って言ったら、主役やったパネラーの人よりも私が主役になってしまったんですね。それは本当に生野区が魅力的ということなんです。

私たちのやってた学校が本当に地域に根差して、地域とともにやっていたということが、私は外から改めて、自分はすごい好きだったけども、御幸森小学校も地域も。だからそれ以来、もともとユネスコスクールということで見学者もすごく多かったんですが、本当に研究テーマとして来られました。もちろんアメリカ領事が来られたりとか、韓国人が多い地域ですので、韓国からの政治家もそうですし、ユネスコスクールの全国大会のときにテーマでやられていた地域の人たちとか自治体。やっぱり自治体が応援している大阪は、これは生野区だけの問題じゃないと思うんですけど、自治体が応援しているところが非常に多かった。だから、大阪やったら大阪市、大阪府ですよ。それで改めて私は、先ほどから発信力、広報とかっておっしゃっているの、そこは真剣に考えたらどうかなと思っています。

それと、よく山村留学とかありますよね。まちの人間が山に行く、私もそういうのいいなと思ったりするんですけど、でも最終的にはまちに戻ってくる。だから、逆のパターンを考えても面白いんじゃないかなと。生野区の魅力はこれだけあるんだから、生野区留学みたいな。私は御幸森にいてたときに、一条通りの人たちが子どもをものすごい

見守っていたということに感謝しています。何かあったら、どこどこの誰々がこんなことしてたからって、学校にあったんですね。その宝である学校が今なくなっちゃったので、だからぜひ、何かそういうことも考えてみてはどうかと思いました。

○山納委員

実は御幸森小学校の取組は、誇るべき取組であったというお話をいただきました。

それでは、いかがでしょうか。お願いいたします。

○柴田委員

巽から来ました柴田といいます。一応、巽のほうで防災の無線担当を受け持っていたので、発言をさせていただきます。

無線担当になって初めて気がついたんですけれども、地域の皆さん、防災無線はワンランク上の登録必要な無線機を十数台購入いたしました。一時テストでやらせていただきました。感覚的には誰もが使えるであろうと思っていたんですけれども、各町会長の方々が一斉にボタンを押すんですね。混線して全くつながらない。こっちが何のマニュアルもなく、全員使えるだろうと思い込んで使っていたものですから、「質疑応答を受けましたどうぞ」とかいうのも全く言わずに、1回使ってみてくださいというので、テストやったし、使ってみようということでやったんですけれども、連絡がつかない、混線する、1人全く帰ってきてくださいという連絡にも一切応答がない。後で聞いてみたら全く聞こえなかったとか、1人は勝手にしゃべっているけど何も言わずに帰ってくるとか、いろいろなトラブルが起きました。

思ったんですけれども、いざ何か災害が起こったときに、区役所にも一応無線は置いていただいています。何年前、大分昔ですけれども、区役所の方々に来ていただいて、こうこうこういうふうにするんですというのを教えていただいたのが1回ぐらいかなという記憶です。僕が町内会に入らせていただいたの話ですけれども。

そんな状態でふと思ったんです。これどうやって最初の連絡網をとるのと思ったんです。一切訓練も何もしておりません。こんなコロナの時期ですので、できてないという理由も分かるんですけれども、実際に携帯が全く使えない状況というのは、何回かの災害で分かっていることなので、何らかの連絡網をとるべきではないかなと、初めて無線担当をさせていただいて思った感想です。訓練等で必ず、いろいろな防災の訓練は必要やと思うんですけれども、無線も一環として、無線に限らずどんな連絡網があるかは分からないですけれども、そういうのが必要じゃないかなと思いました。

○山納委員

防災無線を使ってみて、連絡網というものの重要性があるというお

話をいただきました。

いかがでしょうか。

○川口委員

こんばんは、中川地域の川口です。

こんなこと相談できるかどうかは分かりませんが、今のコロナって未知の世界でしょ、いつ終わるか分からない。今、私ら高齢者の方と関わっているんですけど、食事サービスから始まって、全部行事ができないんですよ。そして、たまにおうちにお伺いしたときも、独居暮らしの方の場合で言ったら、ちょっと物忘れしてはる方とか、もう行ったらすがりついて「ねえちゃん、いつしてくれるの、いつしてくれるの」ってお声がかかるんです。それが一番つらい。いつそういうのを、どういうあれで再開したらいいのかがね、ちょっと困っているんです。

今も人数多いから、サロンでも始めて、もしものことがあったらという責任感がありますでしょ。ほな次、こっちもちゅうちょしてしまっって、できないってなっているんですよ。それが一番今、皆さんはどういうふうにされてはるのかな、地域でやってはるのかなというのをお聞きしたいですけどね。どういうふうにしてこれからしていったらいいのかなっていうのも、ちょっと考えてほしいです。

○山納委員

ありがとうございます。このコロナの中で、どうやって催し、人の集まりを再開していくかというのは、多分皆さん共通の課題かと思えます。その課題があるということで、今日は止めたいと思います。後で教えてあげていただいたりすると助かります。お願いします。

では次に、いかがでしょうか。

○森本委員

こども未来部会の森本と申します。どうぞよろしく申し上げます。

3本柱の子育て・教育、空き家、多文化共生、これは全部リンクしているなと思っているんですが、宮崎会長の勝山を御堂筋って、これも面白い、すてきやなと思いましたがけれども、やっぱり子どもがいる世代の人が生野区へ入ってきてくれるのが一番つながっていくかなという。そこのところは、皆さん思っているところだと思うんだけど、やっぱり今子育てがすごくしんどいかなと思っています。特に若い人たちの孤立した子育てについては、どこの地域でも課題だと思っています。

1つは、「いくみんのほんだな」というのを今日配付されていますけれども、子育て支援センターとかの活用ということで、絵本も読んでほしいんですけど、絵本をツールにしながら子育ての相談できるよみたいなことだとか、ちょっと行き場があるよということもあるし、行き場があるよで絵本に出会ってもらおうというという、それもあるのか

など思っています。

そのことを大事にするのと、もう一方で、在日外国人の人たち来ますので、この「いくみんのほんだな」、来年度、再来年度、パート2で何か外国語版、母語版絵本の「いくみんのほんだな」ができればいいかな。ここのセンターにこの86冊それぞれ配架しようというので、それぞれの施設の予算で入れていっているんですけども、そんなふうにすると、そこへ行くと自分の母語に出会えるみたいなことも少しあったらいいなって。そんな取組のための予算もぜひ考えていただいたらいいかなと思っています。

それとあわせて、毎年されているんでしょうかね。区政に関する区民アンケート調査、これすごく私はいいかなって、すごく指針になるかなと思っています。今年もされるんだろうと思っているんですけど、できたらアンケート調査、その年その年の聞かないといけないアンケート項目はあるかと思うんですが、同じアンケート内容というのをしばらくずっととり続けていただいて、今年のアンケート項目というのと、経過を見ていくことで見えてくる課題だとかっていうことがあって、それはもうどなたかがきつとなさっているんだろうと思いつつも、すごく面白いと思っているので、ぜひ継続をしてほしいと思っています。

住みたいと感じる魅力のあるまちだと思うかとか、そうでないのか、住みたいと感じるまちで、どちらかというところではないというのはどうなのかという辺りはすごく面白いと思っていて、私はその辺の視点で、子育て・教育、空き家、多文化共生の課題が見えてくるし、方向が定まっていくんじゃないかなと思っていますので、これからも生野の区政に期待したいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

○山納委員

ありがとうございました。

早いものであと6人です。まだの方、いかがでしょうか。

○川中委員

どうもこんばんは、龍谷大学の川中でございます。

ほかの委員の方々の発言を聞きながら、生野での暮らしに根差してリアリティがあって、私なんか発言していいのかなとちゅうちょしてしまって、えらい抽象的なものになるかと思いますが、御了承いただければと思います。

まず最初にですけども、多文化共生の取組についてですけども、今日のお話ですと、外国人に伝えるということに力点が置かれていたかなと思うんですね。それに加えて、やっぱり外国人住民から聞くというような取組にも注力していったほうがいいのではないかなというふうに、聞いていて思いました。外国人住民の方々の生の声から、ま

ちの課題というのを明るみに出していくというところがとてもよいのかと思います。

2つ目ですけども、防災、減災というお話がございましたけども、避難するまでというところに力点が置かれている話が多いなと思って聞いていまして、避難してからにも注力をしていかなければならない。といいますのは、近年の大規模災害では、災害関連死の割合というのが増え続けているというのが傾向ですので、住民の避難所運営であったりとか、行政によって設置されます避難所の福祉水準の向上とか、そうしたことに取り組んでいかなければ、これから高齢化率がどんどん高くなっていけば、従来の避難所の設定では対応し切れないというのが肝になってくるであろうと思いました。

地域福祉について、先ほどのお話とも少し関連するんですけども、今出ている考えというのは、既存の資源をどう活用していくのかということに力点が置かれているわけですけども、どうしても地域で活動されている方々の固定化や高齢化ということや、限られた人々によって献身的に支えられている部分というのが非常に大きくなってきているというところを考えますと、新しい資源というのをどう開発していくのかということに注力していく必要があるのかと思います。

具体的には、地元の小中高生とかですね、そうした子どもや若者がまちづくりの活動に参画したりとか、あるいは区政に参画していくことへの推進というのがあると。ひいては、我が町意識の醸成にもつながることですし、生野の教育の魅力化にもつながることかと思えます。

生野の教育ということを上申したんですけども、今日のお話の限りですと、民間事業をどう活用するかということに非常に力点が置かれているように聞こえたんですけども、先ほど御幸森小学校のお話がありましたように、学校の先生方の成長や活躍、学習をどう支援していくのか、チャレンジをどうサポートしていくのかということにも、もう少し力点が置かれてもいいかなというふうに聞こえておりました。

あと防犯についてですね、非常に減ってきているという話があったんですけども、今は被害者にならないためにどうするかということに力点が置かれているわけですけども、加害者にならないためにどうするか、加害者にならないための取組ですね、そこも考えていかなければならないと。減っていき続ければどっかで詰まるところがあって、その人たちは社会的な絆をどう育んでいくのかということに課題が出てまいりますので、そこが今後の。

○山納委員

ここで3分です。

○川中委員

はい。最後ですけども、これはちょっと細かいことなんですけども、

教育に関連する指標で「人の役に立つ人間になりたいかどうか」ということを聞いているんですよね。これは分かるんですけども、ともすれば優生思想にもつながりかねないような質問でもあるなと思ひまして、自分の存在を肯定できるのか、そして多様な人々とともに生きていけるのか、こういった観点でのポイントで聞いていくといったことも必要かと思ひます。

以上です。

○山納委員

うっかりオンラインにおられた方を忘れていたので、今からあと6人です。

オンラインの方いかがでしょうか。何かしゃべられますか。北口さん、いかがでしょうか。

今、北口さんの声が聞こえていない状態です。区役所の人が動いてくれています。北口さん、いかがでしょうか。

○北口（英）委員

音声入っていますか。

○山納委員

今入りました。

○北口（英）委員

すみません、音声の調子が悪くて、声をもともと入ってきてなくて、会話がほとんど聞けてない状況です。

○山納委員

今お話しいただけますか。

○北口（英）委員

音声届いていますか。

○山納委員

聞こえています。

○北口（英）委員

こちらの状況が分からないんですが、音声の調子が悪くて会話がほとんど聞こえてない状況が続いていまして、ちょっと脈絡がつかめていません。

○山納委員

脈絡を申し上げますと、1人3分ぐらいで生野区をどうしたいのか、どういう生野区になってほしいのかという観点から自由にお話しただいています。

○北口（英）委員

特に私の近辺の状況で言いましたら、異東のほうでは高齢化が進んでおり、独居されてきている人が増えてきましたので、その方たちをいかにこれからどうやって孤立させないようにしていくか、今後の焦点として考えていきたいとは思っております。

○山納委員

それぐらいですか。

○北口（英）委員

そうですね。

○山納委員

ありがとうございます。

では、また会場に戻りたいと思います。お願いします。

○橋野委員

中川地区の橋野です。安心・安全まちづくり部会に所属しております。

鶴橋は区がまたがるところが多いので、行政的にも難しいかも分からないんですけども、今コリアタウンに行く方が多いんですけども、疎開道路で一部、歩道と車道の区別がないところが多いんですね。それで、女性の方がスマホを見ながら歩いておられて、信号があっても無視して歩いているとか、3人、4人横になって歩かれているとか、すごく危険な状態なんですね。だから、できるようでしたら通学路みたいにラインを引いてもらうとか、そういうことができればいいかなと思っているんですけども。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。そうですね、疎開道路辺りって、土日に行くとすごい人ですよ。韓国人のスターが好きという人がカフェに行ったり、だからごもつともだだと思います。スマホを見ながら道を歩く、そんな人たちがいるということ、その人たちの安全ということはどう考えるのか、大事なポイントだと思いました。ありがとうございます。

いかがでしょうか。当てましょうか。加藤委員にお願いしてもよろしいでしょうか。

○加藤委員

加藤です。

あまり意見はないですけども、先ほどのことで防災無線、今役所のほうからは、防災無線というのは各町会、学校に行き渡ってますよね。地域での防災無線というのが、あれは防災のチャンネルをとれば、各地域だけで防災無線というのはできますし、今は簡単にチャンネルをとらなくてもできる無線もありますよね。うちの連合でも防災無線というのを、各町会長、防犯、防災、10個ほど各町会で持っていますけども、最初なかなか使えなかったけども、しょっちゅう使おうということで、盆踊りとか夜警のときに、出た者に持たせて、やっていったら結構使えるようになりますけどね。

要するに、いつでも使えるように、何かの行事のときに連絡を取り

合うというのが、無線の使い方というのはね。あまり意見ないですけどね。

○山納委員

ありがとうございます。防災無線を使うシチュエーションをつくるということですね。災害時じゃなくて、イベントみたいなこと、その場を使って慣れておくということ、実はすごく大事な指摘をいただいたのではないかと考えております。ありがとうございます。

大倉委員にお願いしてよろしいでしょうか。

○大倉委員

すみません、なかなか言うことがまとまらず、遅くなってしまったんですけど、前に部会がなくなったということで、いろいろ意見があったら上げてくださいということで、この意見等というところに意見を結構上げさせてもらったんですけど、この意見って、上げるけど、そこに対する回答があって、これは終わりなんですかね。

ここでの意見もそうなんですけど、私この間の秋に全体会があったときから始めて参加させていただいているんですけども、こうやって意見を上げて、何か行政側からのこうしていったらいいですねとか、何か深まりがあるようなことならいいなと思うんですけど、これも一生懸命考えて意見出したけど、こうやって回答を上げられて、ああそうですかと私は読んで終わりなのかって、ちょっと思う部分がまずあったということをごここで。

こういうことって、こうして皆さんの思っていることがちゃんと伝わって、深まって、何か生まれていくような場になるような区政会議がこのきっかけとなり、何かにつながっていくなら本当にいいことだなって思うんですが、ちょっとこの間から感じているのは、いい意見をいただきましたで終わって、なかなかつながっていないんじゃないかなというふうに感じています。

私が一番言いたいのは、自分の子どもが学校再編の中で、もう本当に先日、閉校式が行われて学校がなくなって、小学生、中学生いるので、小中一貫校でまた別の学校に行くことになるんですけども、子育てに優しく、教育に強いまちってうたわれてますけども、それに解離するような生野区の状況ってないのかなってずっと考えています。

こうやって学校がなくなることによって、通学距離も長くなり、危険な道を通りながら、その危険な道っていうのも、私学校づくりの検討会議にも参加させていただいていますので、危ない道についていろいろな意見も上げさせていただいたんですけど、先ほどご意見もあったと思うんですけど、疎開道路の話もあったと思うんですけども、本当にいろいろな規制をかけていただける、信号1つ変えていただくということもなかなかありません。線引いてくれるならまだましなんですけども、線を引くのも警察とのいろいろな事情でできません、大き

な車両規制してください、それもできません、ほとんどのことができませんということがありました。いろいろなことを検討していただくような会議とはいえ、ほとんど行政が最初から描いておられた計画どおりに進められて、私たち地域の人間やったり、保護者の意見というのはほとんど伝わらず、学校が出来上がるころまでできています。

閉校した学校跡地には、避難所として残すということを約束していただいたような話。

○山納委員

3分たちました。

○大倉委員

じゃあ、やめます。

○山納委員

言いたいところまで言ってしまってください。

○大倉委員

避難所として使うので、閉校した学校跡地もなくなりませんという話でしたが、全部の学校の中でガス空調になっているので、ガスは全部止めますという話があり、生涯学習とか避難場所としても使うと言いながら、果たしてそれがちゃんと使われるんだろうか。通学路の話もあります、いろいろなことがまだまだ心配なまま、学校がそれぞれ4月1日に5校ぐらいなくなった中でスタートするんです。

そういうことについて、こういう学校づくりがちゃんとしたものであったんかどうかという反省とか、検討がなされる場というのが本当になくて、また次の再編を進めようとしている。学校再編は成功していますみたいなことを言われることについて、本当に憤りも感じますし、地域や、そういうハード、皆さんの気持ちみたいなものに寄り添うような形で進められてないところが、幾ら建物が建っても、そこに通うようになる、その地域の人たちがそこでいろいろなコミュニティを持っていたところがなくなる、さっきの御幸森がなくなったことも、ユネスコスクールやったからなくなってほしくなかったし、そういう財産みたいなものをなくすということについて、本当にここから先、これを検討する場みたいなものがないといけないんじゃないかなって思っています。そういうことをこれからちゃんと行政側が私たちに示してほしいなって、いろいろ考えていただきたいなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。学校再編の話は、非常に大きな話だと思います。本当に学校が閉まってしまう、そこを出て別の学校に移らないといけない子どもたちがいる、これは非常に大きな問題であり、当事者の人たちがそうしている、そのことに対して、どう行政の方、区役所の方が考えているのか。そして、区政会議の方々、区民の方々がどう考えてどうするのかということ、これはしっかりやったほうがよさ

そうですね。この話は、これから繰り返しこの会議に出てくると思います。どう考えるのか、ぜひ皆さん宿題として持ち帰っていただいたらと思います。ありがとうございました。

古本委員、いかがでしょうか。

○古本委員

北巽地域の古本といいます。よろしく申し上げます。

皆さんの話を聞かせていただいて、皆さん上手にお話しされるなと感心しております。自分は人前でしゃべるのが苦手なもので、手挙げてしゃべるなんて、とてもやないけどようせんわと。

皆さんの話を聞かせていただいて、当てられたら、そらしゃべらんわけにはいかんやろというようなことなんですけど、生野区、私は昔、小さいときに城東区に住んでおりました関係で、そのときは地域のこともあったり、環境ということもあるんで、全てが当てはまるということはないと思うんですけど、小さい頃には、小学校のときには6クラス、当時あって、1クラス50人ぐらいおりました。

そうやから、子どもの数にしたら相当多いと思うんですが、それでも6クラス全員が自分の友達やというような気持ちでおりました。ましてそれを超えて、低学年といいますか、5年生の子も、全員の名前を知っているということはないにしても、かなり知っているというような環境で住んでおりましたので、それに加えて、現在、生野区に引っ越してきて、隣に引っ越して来はったのに挨拶に来うへんから、あれっと思って、こんなことあるんやなど、実はびっくりしているというような環境でした。

先ほど宮崎さんでしたかね、お話しして、生野区を明るいまちへというようなことを言うておられました。ええ話やなというように聞いておったんですけど、隣に引っ越して来てんやったら、挨拶ぐらいするやろと思うようなことが生野区ではあるねんなというようなことを感じました。

○山納委員

3分でございます。

○古本委員

そうですか。もう人前でしゃべるのが下手なもので、もう置いときますわ。

○山納委員

ありがとうございました。

藪本委員にお願いしてよろしいでしょうか。

○藪本委員

皆さん、こんばんは。東中川の藪本です。よろしく申し上げます。

先ほどから防災のお話、たくさん出ていると思うんですけども、私は生野区を災害に強いまちにしたいと思います。といいますか、災害

が起こることは防げませんが、その後の二次災害をできるだけ少なくするように、そういうまちづくりをしていきたいなと思います。

それにはやはり、先ほどから出ていますけど、やっぱり防災訓練、これが大事やと思います。防災訓練をやり続けなければならないと思います。ということで、今学校の配置の見直しが行われている。その中で、使われなくなった学校1つ、そのまま置いておいてもらうわけにはいかないでしょうか。

今現在は、訓練をするときに小学校なり中学校なりを使うんですが、やはり使われている学校ですから、それなりに制約もいろいろ多いと思います。ということで、使われなくなった学校を1つ置いておいてもらって、そこで訓練を行う。また1泊泊まって、非常食をつくったりとか、ベッド、いろいろ仕切りとかそういうものもありますよね、そういうのも実際に使ってみる。それが大事やと思います。

また、小学校でサマーキャンプですか、そういうものが行われていますけども、子どもたちにもそこで宿泊してもらって、避難所の体験というのをやってもらったらどうでしょうか。

以上です。

#### ○山納委員

防災の観点から廃校を利活用するというご意見をいただきました。

それでは、最後に三木議長にトリを務めていただけたらと思います。

#### ○三木議長

鶴橋地区の三木です。

この取組案の6ページをご覧いただきたいと思いますが、6ページには地域自主防災力の強化ということで、ハザードマップだとか研修会等々が書かれておりますけども、逆にハード面からいけば、まずほとんど書かれていないと。私も鶴橋地区については、昨年、非常用電源というのを3台、ソーラーパネルとセットで3セット購入しまして、会館に2機、それから鶴橋小学校に1機、常時設置して、それを使用しながら充電もしていくと。いざというときには、停電等があっても、ある程度電源を使用することができる。そういうものを購入しました。

先ほど無線の訓練のお話もありましたけども、これ先週、鶴橋地域の女性部長を対象に無線の講習会というか、皆さん女性部長が無線機を1台ずつ持って、自由に自転車であちこち走ってと。それで、ある人は鶴橋小学校まで、ある人は桃谷駅までということで、本部を鶴橋会館に置いて、どの程度まで無線が通ずるか、ということもしてまいりました。

ですから、この地域自主防災力の強化と書かれておられますけども、ある程度ハード面でも、それぞれの各連合、19連合がどの程度いざというときに備えているかと、そういうことも区役所として把握されて

もいかなものかなと思っております。

以上です。

○山納委員

防災面のハード整備というお話をいただいたかと思えます。

皆さん、お疲れさまでした。全員の方にお話しいただいたと思えます。私はしゃべっていませんという方おられませんか。大丈夫でしょうか、抜けてないでしょうか。

お疲れさまでした。最初、しゃべれって言われて、どうしようと思った方もおられたかもしれません。恐らく、しゃべる習慣というんでしょうか、このしゃべる文化みたいなものが、この区役所のこの区政会議の中でこれまでなかったのかもしれません。しゃべってみたらこれだけのことが出てくるということは、皆さんが目当たりにしたことかと思えます。そして、行政が考えて、行政がよかれと思ってやっていることは、ここが違うんじゃないか、抜けているんじゃないかという意見も出たかと思えます。いっぱい意見が出ました。きっと書き留められていると思えます。

これは、恐らく区役所だけの宿題ではないと思えます。生野区をどうしていきたいのかということをお話しいたしました。ここに棚卸しされた課題というものに関して、どうできていくのかということをおそらく部会でも話し合っていくし、区役所の方も考えるし、本当にここはこうしてほしいんだということは強く主張して、もう一度考えていただくみたいな側面も出てくるのかもしれません。そういうことを通じて、生野区をよりよい未来に導いていく、そんな区政会議にできたらと思った次第でございます。

ということで、このバトンは誰に返すんでしたっけ。三木議長でしたかね。

○三木議長

山納委員、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

それでは、本日のご意見を踏まえて、関係者としてご出席いただいております歴代議長等を務められた皆様から、何かご意見等がございましたらよろしく願いいたします。

○多田様

皆さん、こんばんは。多田です。

ちょうど5年前、私は地域振興町会の会長を務めていました。それで地元の小学校の学校協議委員を命じられました。そしてその中で、そのときの5年前の小学校の子どもたちの成績がどういう状況かということをお知らせされました。非常にショックでした。大阪府の平均よりも大阪市が悪い、大阪市の平均よりも生野区は悪いという状況でした。そしたら、子どもたちの将来はどうなるんだろうかと非常に考えましたですね。

というのは、小学校、中学校、高校って上がっていく中で、体力ももちろんそうですが、成績も一緒です。成績次第でいい学校、いいところって、だんだん上へ上がっていくわけです。そして、いろいろな人と戦っていかなきゃいけない。そういう状況の中で、生野区の子どもは環境が非常に悪い状況であったということを知らされまして、本当にショックを受けました。

と同時に、その年に山口区長が来られました。区長は校長先生の経験があり、教育関係にも造詣が深いということで、これはしめたと思って、区長にいろいろお願いしました。各小学校の校長先生のところへ行って、お尻をたたいてくださいと。学校の成績は校長先生次第でよくも悪くもなるということを知っていましたので、区長に校長の尻たたいてよと言って、お願いしました。

その中で、学校再編の話が出ました。その中で、いろいろな学校の限界ということが出てきたということで、そして1年目、2年目で鶴橋中学校と勝山中学校が再編されました。そのときは、いろいろな問題が確かにあったんですが、その結果どうだったかという、子どもたちが非常に元気で明るく学校に行っているという答えが返ってきました。これはよかったなど。

そしてその後で、去年ですね、御幸森小学校と中川小学校が合併になりました。その中でも、校長先生は、子どもたちはもうけましたねという評価が返ってきました。御幸森小学校の子どもたちは非常に得したということで、そういう評価が返ってきました。

だから、学校再編の中で、プラスになれば、もちろんマイナスもある、さっきおっしゃったように通学路の問題とか、いろいろ解決しなければならぬ問題もあるんですが、子どもたちの教育という、学力を上げるという観点からすると、教育環境の改変というのは非常に大事なものであろうかと思えます。

それを山口区長は、この5年間かけてやっていただきました。本当にありがとうございました。区長、何回か時々折れて、もう辞めたいわというようなことを言っていたこともあったんですが、その中でやり遂げられました。5年間本当にありがとうございました。

これから、ここにあるように小中一貫校、この4月から開校されます。我々は、これがどういう状況で動いていくんかということは、しっかりと見届けなければならないと思えます。そして、この小中一貫校がどういう評価を、どういう成果を生むのかということ、我々はじっと監視しながら見届けていきたいと思っています。

僕の後輩に和歌山の高校の先生がおるんですが、その先生が小中一貫校の論文を書かれておりました。小中一貫校は決して悪い方法ではない、いい方法である、ぜひこれを地域全体で進めてほしいというような論文をされています。私もその論文を読んでおりましたので、小

中一貫校は確かにすばらしいアイデアであり、また新しい教育方針であらうかと思えます。

これを生野区に導入していくわけですから、これがどういうふうに進んでいくのか、これを本当に皆さん見届けてほしいと。また、横から協力というか、サポートもしていかなければいけないと思えます。足を引っ張るんじゃないで、しっかりとその学校が成り立つように、また子どもたちがしっかりと勉強できて、将来明るい人生を送れるようにしていきたいと思えます。子どもたちの将来の幸せというのを我々は奪ってはならないと思えます。しっかりと子どもたちが幸せになる、幸せというのを生野区の子どもたちにしっかりと植え付けていかなければならないと、これは私、地域を預かる者として、非常に感じております。またそれを、この行政として、区長は本当にありがとうございました。終わります。

○三木議長

ありがとうございました。

田中さん、どうぞ。

○田中様

時間、大丈夫ですか。9時回ってますけども。

○三木議長

はい、どうぞ。

○田中様

先ほどから防災の話、多文化共生の話、また後継者問題の話、いろいろお話しさせていただきたいんですが、もう時間で。

先ほど川口部長がおっしゃってましたコロナ禍の中の配食ですよ、食事サービス。これついこの間、私のほうにもうちの連合のほうからお話があって、コロナ禍でどないしたらええんやろうという、つい先週なんですけど、ご相談に来られました。

今、皆さんが寄って集まっていたいて、つくることは非常に困難。そしたら地域、うちは北鶴橋ですが、北鶴橋連合の中の食べ物屋さん、月1回ですから、そこで配食するためのものをつくってくれへんかというお話をしたら、それも1つのアイデアやなど。2つ、3つぐらいのお店をお願いして、月1回だけボランティアに参加してください、またそのお店も自分とこの商売、暇なときの時間帯もありますので、その時間に何十食か一遍につくっていただいて、応援していただこうと。ウィン・ウィンでいきたいなど。このようなアイデアで話しさせていただいたら、一遍考えてみて進めましょかということで、これも食事サービスの委員会の委員長としての話をさせていただきました。

以上です。

○三木議長

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

それでは、本日の会議を踏まえまして、山口区長から一言お願いいたします。

○山口生野区長

皆さん全員の声聞くことができました。ファシリテート、ありがとうございます。

言いたいことはいっぱいあるんですけど、嫌われ役としての5年間だったと思っています。それはそうなんです。あるものがなくなるのは、誰もがつらいです。私も元小規模校の校長で、その3年間、100人足らずの子どもたちをどうやって守るか、あの当時、いきなりもう学校がなくなる計画になってるかって言われたときに、どうしたらいいのかと。当時、私、本当に行政に行くなんて夢にも思ってませんでしたので、民間から行って校長になって、一人一人の顔と名前を覚えて、あの学校をどこまでも持続可能になるようなアイデアとしての小規模特認校であったり、いろいろなことを考えました。

ただ、行政の立場に、1回教育委員会ってなって、またこうして区長として来て、つくづく思うのは、やはり人口減少という問題に対して、これはもう社会全体でどうしようもなく立ち向かっていかなければなりません。子育て世代の流入に成功しているのは、多分明石市が有名だと思うんですけども、彼らがやっていることは、結局よその自治体から子育て世代を奪っているだけのことであって、そういう自治体間競争、区間競争みたいなところに私たちはいます。

生野区は何でこんなふうになったかみたいな話は、もう話すと長くなるので、45分の動画がありますので、区政便りの最後に「てるてるだより」というのを連載してしまして、その最後にQRコードをつけています。なぜ子育て世代が流入してこなかったのか、それに対して区としてどういうことに取り組んだのか、その話を45分の動画で、できるだけ分かりやすく伝えるようにしています。小学校でもこういった話をさせてもらいました。

1つ言っておきたいのは、質問されたり、要望されたりしたら、答えなあかんのです。やっていることも実はいっぱいあるけど、下手くそでどうしても伝わらるので、一旦いただいたら、こういうことやってますとは説明せなあかん。申し訳ないけど、区の職員も大阪市の職員も、このコロナ禍の中で人がどんどんと削られていく中で、ものすごい、当たり前前のごとが当たり前前に回るだけ、すごく頑張っているんです。

だから、今日はある意味、皆さんのご意見を聞きながら、届いてないのは、広報代行会社を経営してて、その看板を引っ提げて区長になった5年間、あんた何もできてへんかったやんと言われているような

気持ちにもなりました。だから、ちゃんと組織として引き継いで、より伝わるようにしますし、皆さんにお願いしたいのは、情報のレベル感と人権意識のレベル感と、このまちの歴史を深く知っているレベル感と愛するレベル感、ばらばらです。本当にばらばらです。今日ここにいる皆さんだけでも、一つ一つの発言に胸を痛めた方もいらっしゃると思いますし、それちゃうでと言いたいと思った人もいっぱいいると思うんです。この人数でもそうなんです。

でも、この多様性こそが生野のまちのすごさでもあるんです。いろいろな人がいて、いろいろな考え方があって、皆さんそれぞれがお互いできれば、まちの人たち同士でも、それちゃうでとか、生野こんな歴史あるねんでとか、そういう言葉は使わんほうがええよとか、もっとこういう考え方でやったほうがええよというのを、ちょっと今日疑似体験じゃないですけど、この場をつくっていただいたことで感じることもできました。ほかの人の視点を持って帰っていただいて、ちょっとだけそこに行行政ってこんなこと思ってるんや、区役所も区役所なりに頑張ってるけど、伝わらへんというのは身もだえするような思いで、悲しい思いできてるねんなどということもちょっと理解していただいて、分かったことは伝える、分かりにくいことは、分かりにくいからもっとこういう伝え方してってどんどん言っていただけたらなと思いました。

今日いただいた中で幾つかお答えできるものは、何かの形で皆さんに、実はこういうことをやってますとか、ここが相談窓口ですみたいなことをお返ししたいなと思っています。

そして、区民アンケート、5年間頑張りましたが、「生野区を住みたい魅力的なまちだと思いますか」のアンケート、区民アンケートですよ、区で住んではる人の答えがまだ過半数、ネガティブ回答で、最新の情報であったのが、これもまた私は夜も寝られへんぐらい残念です。生野区はすてきなまちやと自信を持って私はいますので、皆さんもぜひそれぞれのやり方で広めて、発信していただけたらなと思います。

5年間、そして今日の会議、本当にありがとうございました。

#### ○三木議長

5年間ありがとうございました。

本日は、令和4年度の生野区の取組み（案）、また生野区をどうしたいのか、どうあるべきかについて、非常に活発な意見交換がなされたと思います。

区政会議は、我々委員が区民を代表して、区政に参画する大切な場です。地域のまちづくり協議会などからご推薦された委員の方々につきましては、地域の皆様方に本日の会議の様子をお伝えしていただきたいと思っております。

それでは、副議長から一言お願いいたします。

○船方副議長

本日はお疲れさまでした。山納委員にたくさんの発言を促していただき、たくさん意見が聞けてよかったと思っています。

区政会議は、生野区の在り方や将来について、区民同士が率直に情報交換をしたり、意見を語り合える場です。私たち委員、これからも生野区の将来のため、区役所の方とともにしっかりと考えていきたいと思っています。

今後もどうか活発なご意見をよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

○三木議長

それでは最後に、事務局から連絡事項があるようですので、お願いいたします。

○小原企画総務課長

お疲れさまでございました。

次回の区政会議の開催について、ご案内させていただきます。各部会を5月の下旬頃、全体会を6月中旬頃に予定しております。日程については改めてご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○三木議長

ただいま事務局より連絡がありましたように、5月下旬に各部会を、6月中旬頃に全体会が予定されておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これにて本日の区政会議全体会を終了します。

委員の皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

(拍手)